

## [研究ノート]

# 利根川と江戸川の河川域に見られるタンポポのフィールドでの見分けかたのまとめ

岩槻 秀明

## 1 はじめに

春になると、利根川と江戸川の河川域では、菜の花と共にタンポポの黄色い花も目立つようになる。タンポポは非常に身近な花であり、古くから親しまれてきた。

タンポポの仲間は、そうした身近な花でありながら個体ごとの変異が激しく、分類学的には検討の余地が多い。また、地域によって生えている種が異なり、非常に奥が深い分類群である。

近年、外来種のタンポポが圧倒的に多くなり、また外来種と在来種が交雑してできた雑種系のタンポポも極めて多くなってきて、事態はさらに複雑化している。

そのため、タンポポについては古くからの知見と、近年の外来種問題を伴った複雑な状況とで、断片的な情報が多くなってきている。そこで、一旦タンポポについて整理してまとめてみたいと思い、本稿執筆に至ったものである。

本来は全国を対象とするべきだが、それには膨大な時間がかかるため、今回は筆者が利根川と江戸川の河川域を中心に観察したタンポポを基に、関東エリア（主に平野部）のタンポポ事情を考察したいと思う。

## 2 タンポポの同定ポイントについて

タンポポは非常に多彩な形質をもつ分類群で、種の同定は難しい。

葉の色や形、花茎の高さなどは個体ごとに違うため、あまり同定のポイントにはな

らない。

タンポポのフィールドにおける同定ポイントとして重要なのは、頭花である。頭花の各部名称は図1に示したとおりである。尤も、頭花の形態は同じ種の中でも多彩で、区別しづらいものもあるが、以下のポイントが同定の基準として使える。

- ・総苞の色
- ・外総苞片の反り具合
- ・外総苞片の先にある小角突起の有無
- ・外総苞片と内総苞片の長さの割合
- ・花粉の有無と形状
- ・頭花の色

また、在来タンポポは地域によって自生している種がある程度決まっているので、調査した地域も併せて参考にするとよい。

## 3 在来種のタンポポ

日本に元から自生しているタンポポを総称して、「在来タンポポ」又は「日本タンポポ」と呼ぶ。在来タンポポは20種ほど日本に存在し、地域によってタンポポの種類が変わってくる。

そこで、代表的な在来タンポポの種類と国内の分布状況を図2に示すことにした。

今回、本稿で取り上げる河川域は関東地方に属し、そこには黄色い花の在来タンポポとしてカントウタンポポ・シナノタンポポ・トウカイタンポポの3種が自生している。

カントウタンポポの仲間として、白っぼ

い花を咲かせるウスジロタンポポもある。

また、本来は西日本に多く見られる白い花を咲かせるシロバナタンポポも、よく見かけるようになってきた。これは、人為的な原因による移入が考えられている。

シロバナタンポポとウスジロタンポポは花色と外見がよく似ているが、総苞は異なっている。シロバナタンポポの外総苞片の反り具合は図3のIIであるのに対して、カントウタンポポの仲間であるウスジロタンポポは図3のIである。

#### 4 外来種のタンポポ

俗に言う「外来タンポポ」はヨーロッパ原産の多年草で、街中の道端や公園など人為的な攪乱の激しい場所で普通に見られる。花は在来タンポポよりも濃い黄色をしているものが多く、単為生殖をするので受粉しなくても結実できる。また、花期は春に限らず、暖地において周年開花する傾向が強い。

外来タンポポは在来タンポポと異なり、外総苞片が反り返るのが外見上の大きな特徴である。外来タンポポには、瘦果が褐色のセイヨウタンポポ (*T. officinaie*) と、瘦果が赤色のアカミタンポポ (*T. laevigatum*) が従来から知られている。

しかし、原産地のヨーロッパでは、似たような形態を持つ多数の種が報告されている。また、近年は日本にも複数の系統の外来タンポポが侵入していると考えられており、「外来タンポポ種群」としてまとめて表記するようになってきた。筆者も、それに従うこととする。

#### 5 雑種タンポポ

「雑種タンポポ」は、外来タンポポと在来タンポポが交雑してできたものを指す。外見や性質は外来タンポポに似ているが、外総苞片の反り具合は図3のII~IIIのように中途半端なものが多い。また、大なり小なり小角突起を伴うものが多い。

平成15年に発行された千葉県植物誌に

よれば、雑種タンポポの形態として以下の2種が紹介されている。

- ・アイノコセイヨウタンポポ  
(セイヨウタンポポ×カントウタンポポ)
- ・アイノコアカミタンポポ  
(アカミタンポポ×カントウタンポポ)

現在、純粋なセイヨウタンポポやアカミタンポポは稀で、外来タンポポの外見を呈するほとんどが雑種タンポポと考えられている。

これは、外来種による遺伝子レベルの攪乱の一例である。そのため、外来生物法において外来タンポポ種群が要注意外来生物に指定されている。

#### 6 ニセカントウタンポポ (仮称)

かつて、タンポポが在来か外来かを区別する簡単な方法として、「外総苞片の反り具合」が使われていた。

その詳細は、以下のとおりである。

- ・在来タンポポ……外総苞片が反り返らない (図3のI)
- ・外来タンポポ……外総苞片が反り返る (図3のIV)

ところが、筆者は2003年ごろ、外総苞片が反り返らない外来系のタンポポの存在を発見した。

その発見場所は、県道結城野田線の道端で、人為的攪乱の激しいところだった。何となく在来系のタンポポとは雰囲気異なっていたため、外来系のタンポポの一種と推定し、それを「ニセカントウタンポポ」と仮称した。

詳細を調べるため、発見地から数個体を採取してきて、自宅で栽培し、観察をおこなった。

その結果、以下のような特徴が分かった。

- ・花期は3~4月で、他の外来タンポポ

と異なり周年開花はしない。

- ・外総苞片の反り具合は図3のⅠ～Ⅱでその色調が黒緑色している。
- ・花粉は存在しない。
- ・種子で繁殖し、形質は代々受け継がれている。

今までは、「外総苞片の反り具合」から在来種と外来種を区別していたが、ニセカントウタンポポのように外総苞片が反り返らない外来タンポポが存在することと、街中で見かけるタンポポの多くが雑種タンポポであることから、単純に在来種と外来種を区別できないケースが多い。

「在来種は比較的自然度の高い低草地を好む」、「総苞は明るい緑色である」など、様々な特徴や周辺の環境から総合的に判断する必要があると感じている。

## 7 河川域でのタンポポの分布状況

利根川と江戸川の河川域では、概ね在来タンポポ・外来タンポポ・雑種タンポポの棲み分けができています。

堤防の斜面において、多くの場所で在来タンポポが優占している。このようなところでは、在来タンポポと共にシバスゲ・ノジスミレ・ミツバツチグリ・ツリガネニンジン・クサボケなど、日当たりのよい草地を好む野草が見られる。

ただ、同じ堤防の斜面でも場所によっては、外来タンポポや雑種タンポポが優占しているところもある。そういう場所は、セイバンモロコシなどの外来系の野草が繁茂していることが多く、おそらく人為的な影響を強く受けているものと推定される。

堤防上で見られる在来タンポポはカントウタンポポが主で、その他にシナノタンポポ・トウカイタンポポも混生している。これら、3種の間接的な姿をしているものも

ある。

また、カントウタンポポの仲間であるウスジロタンポポも、割と多く見つかる。

シロバナタンポポは少数だが、ところどころで見かける。

一方、河川敷内は氾濫原で攪乱が激しいためか、外来タンポポや雑種タンポポが優占していることが多い。近年は、先に述べたニセカントウタンポポも多く見かけるようになってきた。

## 8 河川域におけるタンポポの検索

河川域に見られるタンポポの種類の特徴をまとめたのが図11である。関東地方で見られるタンポポをほぼ網羅しているので、関東エリアであればこの表を基に種が特定できると思う。

ただ、外来タンポポの侵入状況や、新しい知見、環境の変化によって、今後見直しが必要になってくる可能性もあることを付け加えておく。

## 9 今後について

複数系統の外来タンポポの侵入と、雑種タンポポの急増により、日本のタンポポをめぐる状況は一層複雑化している。従って、フィールドレベルでの同定が困難な個体も多くなってきた。

本稿では、2012年現在におけるタンポポの状況をまとめてみたが、さらに状況が変化していく可能性も考えられる。

そのため、筆者は今後も継続してタンポポの動向を注意深く見ていきたいと思う。

その結果、また新たな変化が出てきた場合には、このような形で取りまとめてみたいと考えている。

(いわつき・ひであき 当館展示協力員)

## タンポポの頭花

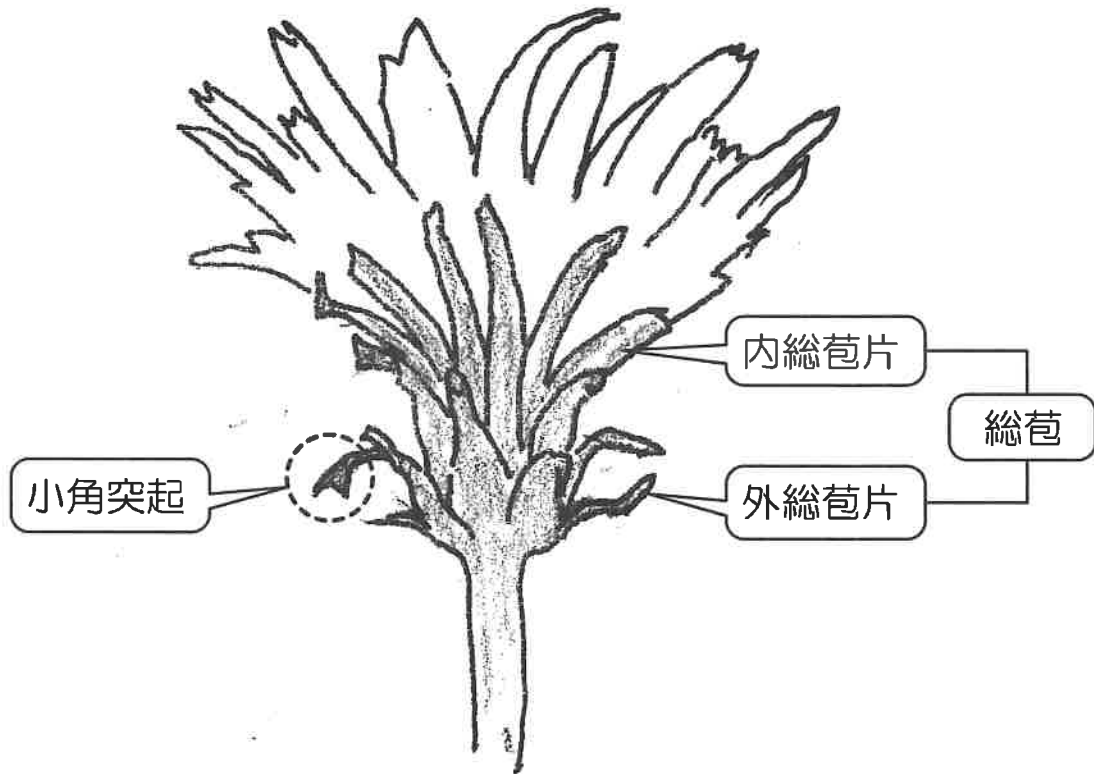
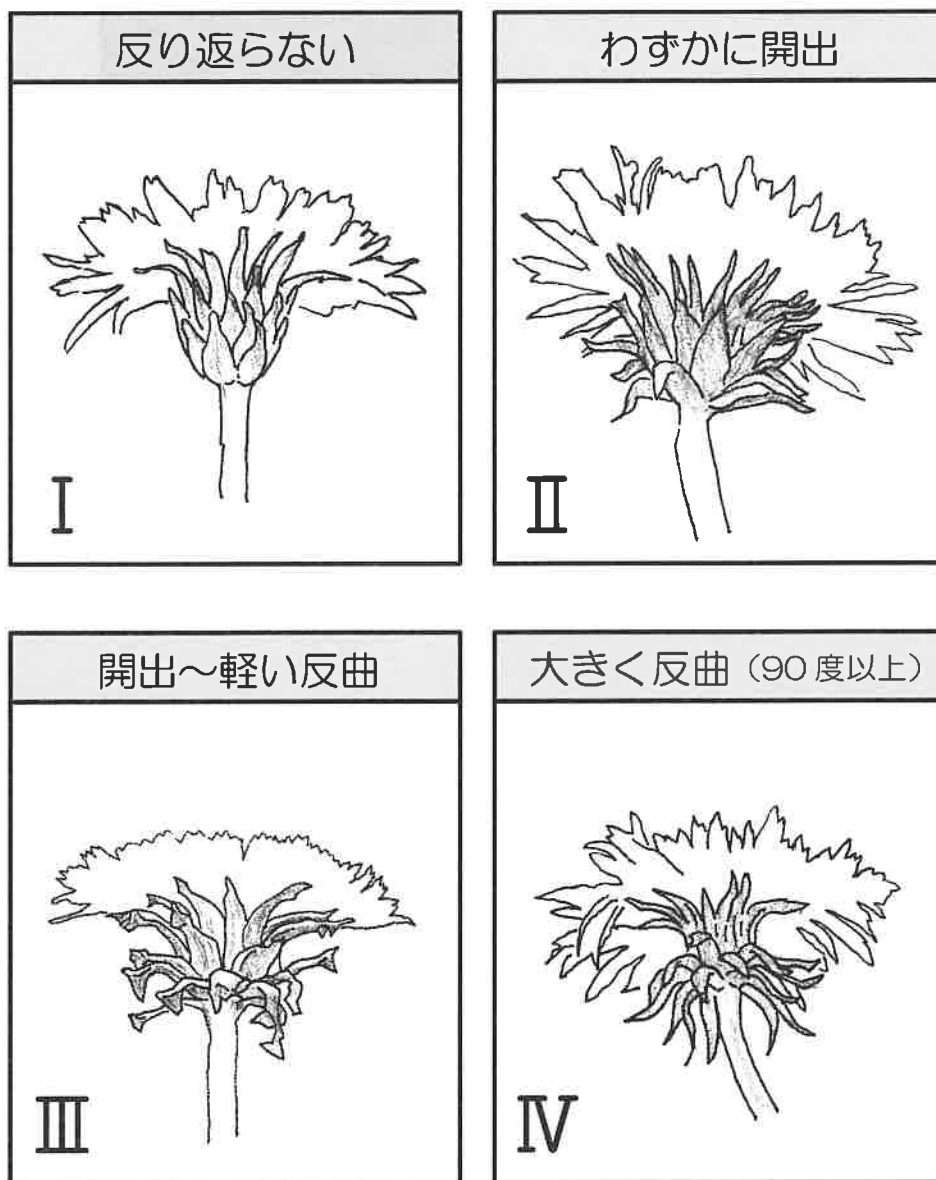


図1 タンポポの頭花の部位名称  
 シロバナタンポポ（2009年4月7日 野田市内）  
 筆者が撮影した写真を独自にトレースした。

	東北・ 北海道	関東 地方	甲信越 地方	中部・ 東海	近畿 地方	北陸 地方	山陽・ 山陰	四国 地方	九州 地方
エゾタンポポ	■								
シナノタンポポ		■	■						
カントウタンポポ		■							
トウカイタンポポ		■		■	■				
カンサイタンポポ				■	■	■	■	■	■
クシバタンポポ					■	■		■	
セイタカタンポポ				■	■	■			
ヤマザトタンポポ					■		■	■	
ケンサキタンポポ							■		
ツクシタンポポ								■	■
シロバナタンポポ		■	■	■	■	■	■	■	■

図2 日本に自生する主な在来タンポポと分布域



## 外総苞片の反り具合

図3 外総苞片の反り具合を判断する目安

I……シナノタンポポ (2010年3月12日 野田市内の江戸川堤防で撮影)

II……外来タンポポ種群 (2011年3月18日 野田市内で撮影)

III……外来タンポポ種群 (2011年3月18日 野田市内で撮影)

IV……外来タンポポ種群 (2010年4月14日 古河市内で撮影)

※いずれも、筆者が撮影した写真を独自にトレースした。

## 外来タンポポ種群

*Taraxacum* spp.



総苞の様子

図4 外来タンポポ種群

左は2010年4月24日 野田市内の利根川河川敷で撮影

右は2010年4月14日 古河市内で撮影

## ニセカントウタンポポ (仮称)

*Taraxacum* sp.



総苞の様子

図5 ニセカントウタンポポ (仮称)

左は2010年3月15日 野田市内で撮影

右は2009年4月23日 野田市内で撮影

## カントウタンポポ

*T. platycarpum* Dahlst.



総苞の様子

図6 カントウタンポポ

左は2010年3月12日 野田市内の江戸川堤防で撮影  
右は2010年3月12日 野田市内の江戸川堤防で撮影

## シナノタンポポ

*T. platycarpum* Dahlst.

subsp. *hondoense* (Nakai ex Koidz.) Morita



総苞の様子

図7 シナノタンポポ

左は2010年3月12日 野田市内の江戸川堤防で撮影  
右は2010年3月13日 五霞町内の中之島公園で撮影

## トウカイトンポポ

*T. platycarpum* Dahlst. var. *longeappendiculatum* (Nakai) Morita



図8 トウカイトンポポ

左は2010年3月12日 野田市内の江戸川堤防で撮影  
右は2008年3月15日 野田市内の江戸川堤防で撮影

## シロバナタンポポ

*T. albidum* Dahlst.



総苞の様子

図9 シロバナタンポポ

左は2010年3月12日 野田市内の江戸川堤防で撮影  
右は2009年4月7日 野田市内で撮影



# ウスジロタンポポ

*T. platycarpum* Dahlst. f. *alboflavescens* H.Koidz.



総苞の様子

図 10 ウスジロタンポポ

左は2009年4月5日 野田市内の利根運河堤防で撮影  
 右は2009年4月19日 五霞町内の中之島公園で撮影

		花期	花色	外総苞片の そり具合	小角突起	内総苞片に対する 外総苞片の長さ	総苞の色	瘦果の色
在来 タン ポポ	カントウタンポポ	春	黄色	I	あり	半分程度	明るい 緑色	褐色
	ウスジロタンポポ		クリーム色		ない~わずかに			
	シナノタンポポ		黄色			あり		
	トウカイタンポポ		白色	II	半分程度			
	シロバナタンポポ							
外来 タン ポポ 種 群	セイヨウタンポポ	ほぼ 通年	濃黄色	IV	ない	—	緑色	赤色
	アカミタンポポ	春		I (~ II)	ない ~あり	半分程度	黒緑色	褐色
	ニセカントウタンポポ						II ~ IV	—
	その他 外来系タンポポ	ほぼ 通年						
雑種タンポポ								

図 11 利根川と江戸川の河川域におけるタンポポ検索表